

会議録

会議の名称	西東京市図書館協議会 平成25年度第2回定例会
開催日時	平成25年7月18日（木曜日）午後3時から5時まで
開催場所	田無公民館3階会議室
出席者	委員：小西委員、鈴木委員、山田委員、山本委員、倉内委員、川口委員、足立委員、屋宮委員 事務局：奈良館長、中村副館長、吉野庶務係長
議題	1 平成24年度図書館事業実績について 2 平成24年度西東京市図書館事業評価について 3 その他
会議資料の名称	1 平成24年度図書館事業概要 2 平成24年度西東京市図書館事業概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>会長： 定刻になりましたので、図書館協議会第2回定例会を始めさせていただきます。最初に館長から報告をお願いいたします。</p> <p>館長： 議会が6月にありました。予算特別委員会で図書館の団体貸出し等についての質問がありました。</p> <p>会長： それでは、議題の平成24年度西東京市図書館実績について館長から説明いただきます。</p> <p>館長： それでは、資料として配布しました「平成24年度図書館事業概要」をご覧ください。平成25年度図書館運営方針から説明いたします。 重点事業として、(1) ひばりが丘図書館の空調設備改修工事の実施、(2) 西東京市耐震改修促進計画に基づく中央図書館・田無公民館の耐震診断の実施、(3) 図書館管理システム及び図書館ホームページの再構築、(4) 録音図書デジタル編集委託の実施の4点があります。</p> <p>(1) については、工事のため、10月15日から11月11日まで休館します。 (2) については、今年は市民会館、中央図書館・田無公民館、新町福祉</p>	

会館、富士町福祉会館で行われます。診断結果により、補強等の対策が実施されま
す。

(3) については、システムのサポートができなくなるため、来年3月に新しいシステ
ムでスタートいたします。新システム導入の間、2月12日から2月28日まで全館休館い
たします。

(4) については、緊急雇用の補助金で行います。内容としては、合併後、作成した
カセットテープをデイジー（デジタル化）にします。

次に組織ですが、昨年度に比べ、ひばりが丘図書館が1名減で定数は29名となってい
ます。司書率は約70%になっています。

次に決算ですが、平成24年度決算見込みで、当初予算額542,282,000円、決算見込額
519,830,732円となっています。平成25年度予算には、システムの入替え、空調工事
等が含まれています。

続いて、副館長が平成24年度の実績を報告いたします。

副館長：

それでは、主要事業から報告させていただきます。

平成24年度の4月から、第3金曜日を館内整理日として休館にいたしました。また、
同時に柳沢、ひばりが丘図書館の祝日開館及び平日午後8時までの開館延長をいたし
ました。

次に貸出方法別利用実績ですが、予約棚システムを、中央、保谷、柳沢、ひばりが
丘図書館は導入しています。芝久保、谷戸図書館は未導入です。予約棚システムを導
入している館と導入していない館とでは、窓口と自動貸出機における貸し出しに占め
る割合が大分違ってきます。自動貸出機での利用が増えた分、カウンターでのレファ
レンスや相談等を充実させてまいります。

次に相互貸借ですが、近年、西東京市の図書館から他の自治体に貸し出す件数が増
加してきました。中でも、規模の大きい自治体に貸し出すことが増えています。他の自
治体において、図書費が減っていることが要因かと思われます。図書費が減ると実用
書を買ひ控えるようになるのか、実用書の貸出しの依頼が増えています。

会長：

図書費が減ると、文芸書から購入し、その次に購入する実用書等の購入を控えるの
で借用の依頼が増えるのでしょうか。

館長：

都立図書館では、本を廃棄しているのが、今まで都立図書館から借りていたものが
借りられないという影響が出ていると思います。

会長：

都立図書館の政策の変更は、都下の図書館に大きく影響しています。

副館長：

次に登録ですが、これは有効登録者という言い方をしています。1年度以内に1回以
上利用した方です。

有効登録者は、西東京市が41,236人、広域圏で5,783人、その他で7,733人、合計で54,752人となっています。

世代別登録ですと、20代から50代の数が多く、勤労者の数が増えています。

予約ですが、各館別にカウンター、館内OPAC、WebOPAC（インターネットの予約）等に分類し、予約受付の割合を見てもインターネットからの予約が増えています。

成人サービスでは、武蔵野大学との協力事業を行っています。また、文化講演会では東日本大震災をテーマに3回行いました。

児童サービスではおはなし会や人形劇等の行事、事業を行いました。

地域行政サービスでは、地域に関係する講師を招いて講演会等を行いました。

ハンディキャップ・サービスでは資料の音訳、点訳資料の貸出等を行っています。

主要事業としては、柳沢、ひばりが丘図書館祝日開館及び午後8時まで開館延長、第3金曜日を館内整理日として設置し休館（中央図書館、保谷駅前図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館で実施）にしました。また、防犯カメラの設置（中央図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館）、ひばりが丘図書館の駐輪場にサイクルゲートを設置するなどの事業を行いました。

会長：

以上の報告について、何か質問、感想等がありますでしょうか。

それでは、次の議題の平成24年度西東京市図書館事業評価に移ります。

図書館の事業評価ですが、自治体は行政評価を行っています。その一部分としての評価でもあります。今までの評価方法は、事業区分を17とし、区分ごとに図書館が自己評価をし、それに対し協議会が、市民等の立場で客観的にみて評価をします。区分が多いので今年度から区分を絞ろうと考えています。また、この事業評価は、教育委員会に報告し、図書館のホームページで公開しています。

図書館側で一次評価について説明していただき、それについてコメントをお願いしたいと思います。それでは一項目めから説明していただきたいと思います。

館長：

「1 図書館資料の収集と保存」「2 施設・備品の整備」「3 図書館の情報システムの整備」「4 利用者と情報の安全管理」「5 図書館資料の効率的な提供の推進」について説明

○委員：

平成23年度では、事業実績と図書館評価(一次評価)が別項目になっていますが、平成24年度では一緒の項目になっています。概念が違うので、一緒になっていると不都合が生じるのではないのでしょうか。

事業実績はきめこまかく書き、一次、二次評価は大づかみで書いて良いのではないのでしょうか。

会長：

事業実績に対して、できたできないというのが評価だとすれば、図書館評価（一次評価）及び図書館協議会評価（二次評価）は、ある程度、定型的な文言で、できたで

きなかったというような形にしてはいかがでしょうか。

館長：

図書館側も評価は簡潔に表していこうと思いますので、図書館協議会評価（二次評価）も簡潔に記載していただきたいと思います。

○委員：

図書館評価（一次評価）と図書館協議会評価（二次評価）で、同じようなことが言われている点があるので、新たな企画があったような場合には、細かく記載し、それ以外は簡潔で良いのではないのでしょうか。

○会長：

委員が言われる通り、評価については、図書館評価（一次評価）と図書館協議会評価（二次評価）が長い文章で繰り返にならないように端的に表すという方向にします。

事前に図書館のコメントを付けて送付しますので、全部の項目ではなくても良いので、評価していただきたいと思います。

○館長：

次回の協議会で視察希望場所をお知らせください。

会長：

それでは、時間になりましたので、本日の協議会は終了します。